

ただ神社系統からもみられるが、寺院開基にしても、中央薬師の勝常寺を除いては盆地の周縁地が古く、規模の大きなものがみられる。そして神社の信仰は、日本本来の神であるため、御神体の偶像を必ずしも要求しない。例えば諏訪信仰が、みさ山などといって、自然の山を神と見立てたり、単なる御幣一本、後に懸仏とか、木像などを奉るようになったが、信仰の魂の問題、信仰の心に重点があつて、御神体そのものの物的価値ということは論外に置かれていたようにみえる。神は何時でも、清め、招じたところにお下りになるようである。このことの方が、信仰の本随になつていゝと思われる。

これに対して仏教は明らかに輸入宗教であるため、仏像の逸品、寺院の豪壮さで信仰をつなぐことが必要であつたようにみえる。これが芸術的な仏像を多く残していることにもなる。

北会津村の仏像も一通り殆んど全部拜んでみたが、下荒井の観音像や、そこに祭られている不動像などは勝れている。館の観音像も柔和な、温情あふれる特異な表情がうかがわれるが、上身の後の塗りかえはまずかつたうである。ただ宇内・勝常の薬師、そばたち、新鶴村根岸中田の観音のような、規模の大きな逸品が目につかないのは、中州文化が、盆地周縁より立ち後れのあつたことを示すものであろう。各部落に祭られる神社・寺院の縁起は、それぞれの項で、比較的詳細に調査もし述べておいたので、重複をさけ、ここに大要の分布を一覧表の形にまとめてみる。祭神、祭日、氏子の数なども、小学校に保存してある郷土誌資料より転載した部分のものが多いので、現在とは相当くいちがっている点があるかと思う。脱落などもあつたら容せられたい。

在	所	神社・寺院名	祭神・宗派	祭日	氏子・檀家数
中	荒井	諏訪神社	武南方命	八月三十一日	一六六